

→ 学 府 名 統合新領域学府 Graduate School of Integrated Frontier Sciences

→ 専 攻 名 ライブラリーサイエンス専攻 Department of Library Science

→ 学 位 名 修士（ライブラリーサイエンス） Master of Library Science
博士（ライブラリーサイエンス） Doctor of Library Science

→ 入学定員 修士課程 10名 博士後期課程 3名

- アドミッションポリシー
1. 専攻の専門に関わる諸問題を学際的に解決し、社会に成果を還元したいという意欲を有していること。
 2. 社会において、先導的役割を果たし、求められる責任を果たす意欲を有していること。
 3. 修士課程にあつては、柔軟な発想力、基本的なコミュニケーション能力、幅広い教養を有していること。博士後期課程にあつては、これらに加えて、専攻の専門に係る研究を推し進めていくに十分な基礎的な専門知識、思考力、柔軟な発想力を有していること。
 4. 社会人にあつては、職場での経験、問題意識を大学において理論的に深化、体系化させたいという意欲を有していること。

→ 選抜方法 【修士課程】出願書類審査、口頭試問及び小論文審査を行い、経験、問題意識、思考力、将来計画、英語能力等を総合的に評価します。
【博士後期課程】出願書類と口頭試問（これまでの教育・研究内容及び入学後の研究計画に関するプレゼンテーションと質疑応答）に基づき、問題意識、学習意欲、専門知識、思考力、将来計画等を総合的に評価します。

箱崎キャンパス



● 問い合わせ先・募集要項請求先

九州大学大学院 統合新領域学府

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

ライブラリーサイエンス専攻

工学部等教務課統合新領域係 TEL (092) 642-7069

※詳しくは、統合新領域学府のホームページをご参照ください。

● <http://www.ifs.kyushu-u.ac.jp> ● <http://lss.ifs.kyushu-u.ac.jp/>



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学大学院統合新領域学府 ライブラリーサイエンス専攻

Department of Library Science
Graduate School of Integrated Frontier Sciences
Kyushu University

修士課程／博士後期課程

「ライブラリーサイエンス専攻」では、「知の創造・継承活動」を支える「場」としての「ライブラリー」を科学し、ユーザーにとって真に意義のある情報の管理・提供を実現する人材を養成します。



大学院統合新領域学府
Graduate School of Integrated Frontier Sciences



ライブラリーサイエンス専攻
Department of Library Science

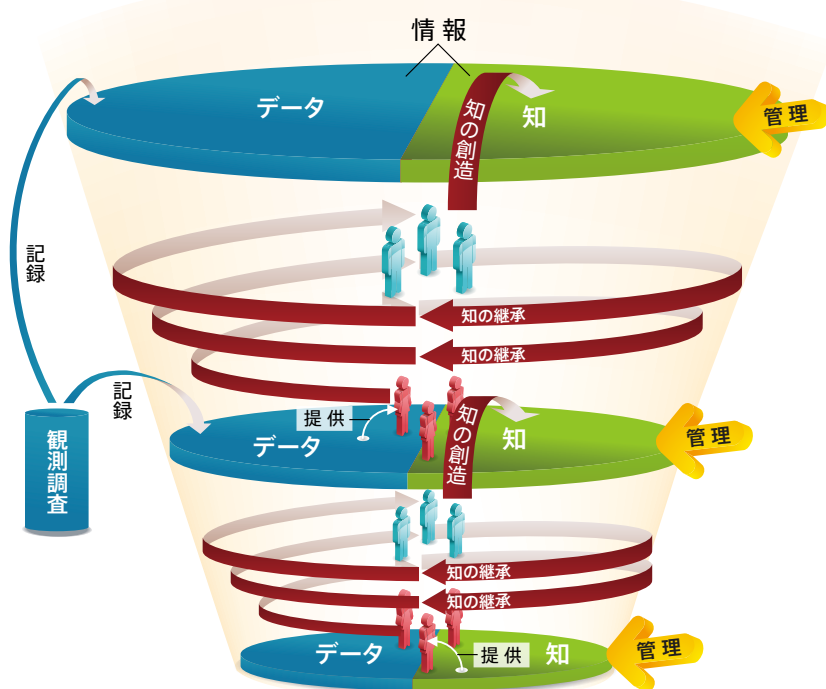
1

「ライブラリーサイエンス」とは？

ユーザーの視点に立った情報の管理と提供を確保し、同時に「知の創造と継承」を支えるあらたな「場」（これを「ライブラリー」と呼びます）を科学します。

情報の収集・活用により創造された知は、記録され、継承されてこそ、あらたな知の創造へと展開することができます。

ここでは、ライブラリー＝図書館という固定観念を超えて、図書文献資料、文書記録資料（アーカイブス資料）等の別なく、統合された方法論にもとづき、情報管理・提供のあたらしいステージを開拓します。



2

設置の背景

現代社会における情報の管理・提供に関する課題

A. 必要な情報を効率的に、いつでもどこでも入手したいというユーザーの要求に、現在の情報管理機関は充分に対応できていないように見えます。このような課題に対しては、図書、文献、文書、記録などの資料（情報）の高度な組織化にもとづく、あらたな情報提供法の実現とサービスが求められます。

B. 多様な情報が入り乱れる現代社会において、個々の情報の性格を見極め、適切に対応するためには、さまざまな領域について一定度の専門的知識を持つ「情報専門職」の介在が不可欠です。アーキビストやサブジェクトライブラリアンなどの専門職実務家の本格的な養成が求められます。

C. 電子媒体やWEB上での情報の生成、発信、利用においては、法制、行政等の面でも、多くの課題を突き付けられています。著作権や情報公開、個人情報保護等の諸問題の前提には、適切な情報の管理、利用が不可欠であり、両者は一体として解決していくことが求められます。

3

九州大学に開設する意義

「ライブラリーサイエンス」は、日本はもちろん、欧米でも最先端に属するあたらしい研究領域です。このような先進的な試みが、九州大学において可能となったのは、右のような実績にもとづくためです。

A. 先端的で複合的な課題の側から科学を見直し、複数の学問分野を統合して課題を解決するためのあらたな知を創造する「統合新領域学府」の存在。

B. 附属図書館をはじめ、大学文書館や記録資料館などにおいて、資料収集・管理・提供等に係る先進的な試みを展開する体制を、いち早く整備してきたこと。

C. 図書館の情報化の先駆けとして、電子リソースの整備や高度な情報サービスの開発など、ICT環境整備において、全国の大学をリードしてきたこと。

4

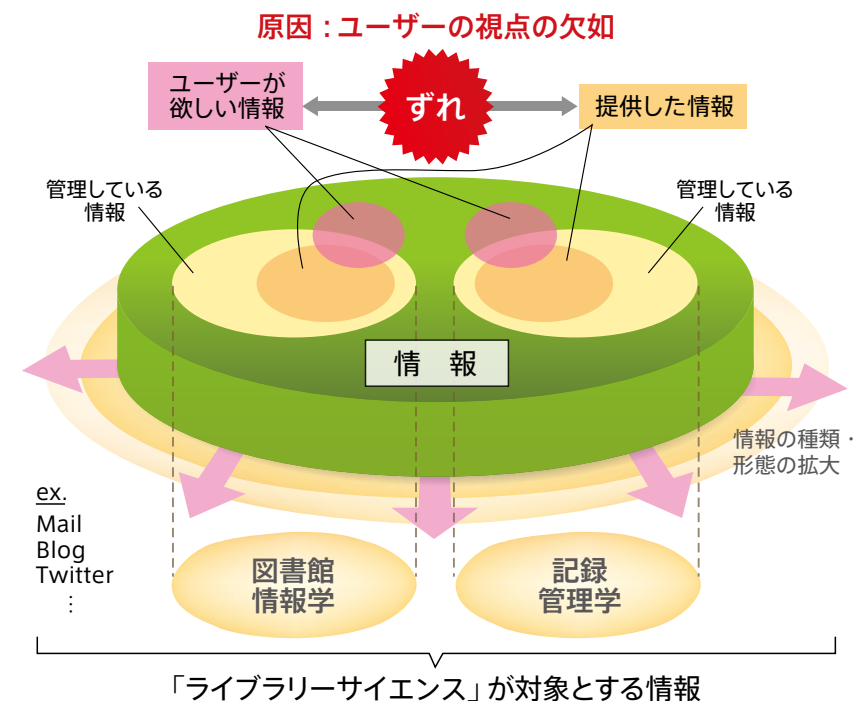
情報の管理・提供に関する科学

A. ユーザーのニーズと知の創造・継承プロセスを把握し、ユーザーにとって意義ある情報の管理・提供を行うための能力の養成

B. ユーザーの多様な情報要求への対応

- 図書館情報学における内容に基づく情報の体系化と、記録管理学での生成・利用の文脈に基づく情報の体系化の統合的活用
- 情報科学的手法による内容に基づく情報の組織化
- インターネット上の情報の膨大さと信頼性を考慮した利用への対応

C. 電子媒体に記録された情報を法制面や流通制度面で適切に対処できる専門職の養成



ライブラリーサイエンス

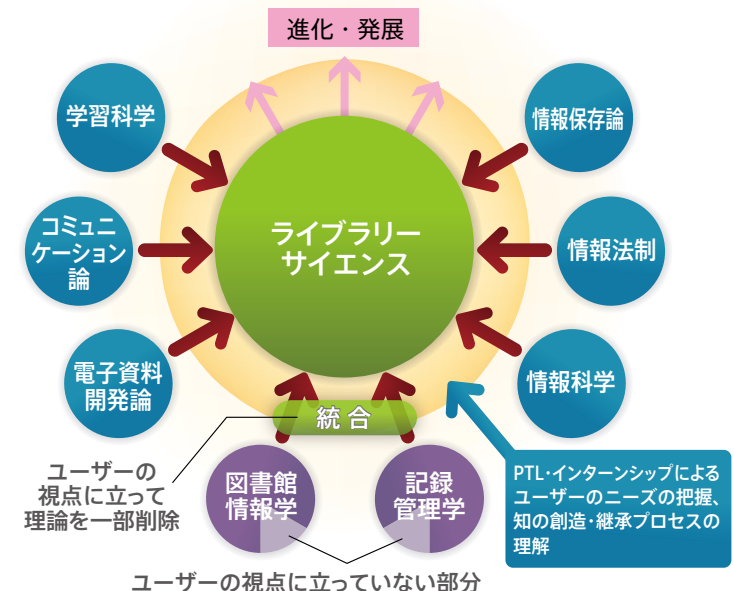
- ユーザーの視点に立った情報の管理・提供
- 対象の拡大により、「ライブラリー」の新たな機能も発生（ex. バーチャルグループ学習）

5

「ライブラリーサイエンス専攻」の理念と目的

「ライブラリーサイエンス専攻」の教育理念、目的は……

1. ユーザーのニーズと知の創造・継承プロセスを把握するための理論や技能に関する教育
2. 図書館情報学と記録管理学を統合した一体教育
3. 情報の管理・提供を実現するための、データエンジニアリングを含む情報通信技術の教育
4. 電子媒体の情報も対象とした、情報法制の現状ならびにその哲学に関する教育と流通制度に関する教育
5. これからの情報の管理・提供のあり方、知の創造・継承活動を支える「場」のあらたな機能などについて探求する能力を身につけさせる教育



6

専任教員紹介

教 授 折田 悦郎

大学文書館

- 専門領域

公文書館論、特に大学を中心とする文書・文書館に関する研究
- 担当授業科目

(修士課程) 文書記録活動論、ライブラリーサイエンスPTL II、特別研究I、特別研究II
(博士後期課程) ライブラリーサイエンス特別研究、ライブラリーサイエンス特論、プレゼンテーション演習

大学院時代は日本中世史を研究していました。その後、母校の年史編集室に勤務、九州大学七十五年史の編集を行い、最近は大学文書館で、アーカイヴズ業務、九州大学史の教育・研究に従事しています。何が“専門”なのか、自分でも判らないほどですが、文書資料には常に関係していたと思います。大学文書館の活動を中心とした科目を担当します。

教 授 廣川 佐千男

情報基盤研究開発センター

- 専門領域

テキストマイニング技術を用いた、情報検索と文書分析に関する研究
- 担当授業科目

(修士課程) ライブラリーサイエンスPTLI、特別研究I、特別研究II
(博士後期課程) ライブラリーサイエンス特別研究、ライブラリーサイエンス特論、プレゼンテーション演習

ベクトルモデルに基く検索エンジンと検索結果の可視化を用いることで、大量の文書群の検索と分析を行う研究を行っています。学術文献情報、企業情報、Web文書、特許明細書、Blog、Twitter、新聞記事など現実のデータに対する独自検索エンジンの構築と、それを用いた分析に取り組んでいます。ライブラリーサイエンス専攻では、分析に関心のある方を歓迎します。

教 授 岡崎 敦

人文科学研究院

- 専門領域

テキスト学、内外の文書記録管理理論、西洋前近代資料に関連した研究
- 担当授業科目

(修士課程) 文書記録マネジメント論、ライブラリーサイエンスPTLII、特別研究I、特別研究II

ヨーロッパ前近代のアーカイブズ資料について研究を続けてきましたが、最近では、図書、蔵書等にも関心を寄せています。また、アーカイブズ理論やテキスト学をはじめとする方法論の問題にも取り組んでいます。資料の存在や機能のあり方が流動化する現在、過去と未来は意外なところで結びついているという思いを深くしています。

教 授 酒匂 一郎

法学研究院

- 専門領域

情報の法的な保護や規制に関する研究
- 担当授業科目

(修士課程) 情報法制論、ライブラリーサイエンスPTLI、特別研究I、特別研究II

専門は法哲学ですが、法科大学院では「インターネットと法」の講義を担当しています。ライブラリーサイエンス専攻でも「情報法制論」を担当します。この科目では、情報のデジタル化とネットワーク化に伴う諸問題、たとえば電子書籍をめぐる知的財産権の問題やデータベース化された個人情報の保護の問題などを検討します。

教 授 高野 信治

比較社会文化研究院

- 専門領域

日本前近代の社会集団・組織とその文書史料群の関係論的研究
- 担当授業科目

(修士課程) 文書記録特殊資料論、ライブラリーサイエンスPTLII、特別研究I、特別研究II

近世日本の政治社会史、とくに身分の上昇や賤視、権威性志向、またかかるアイデンティティの一つの「日本」「神国」意識の形成、総じて権力・民衆の諸社会集団が創造する帰属意識のあり方やステータス認識に関心をもっています。このような観点から、様々な社会集団や組織における文書・記録の生成・管理、書籍の集積・受容などを考えたいと思います。

教 授 三輪 宗弘

附属図書館付設記録資料館

- 専門領域

企業資料、組合資料、海外の日本関係資料の構造と目録作成に関する研究
- 担当授業科目

(修士課程) 外国語資料講読演習I、外国語資料講読演習II、インターンシップ、特別研究I、特別研究II
(博士後期課程) ライブラリーサイエンス特別研究、ライブラリーサイエンス特論、プレゼンテーション演習

一次資料は日本、米国、英国のアーカイブズで追求めてきました。学問を狭い分野に限り研究するのではなく、幅広い観点から眺めるスタイルを貫いています。海外に比べて、日本のアーカイブズの現状を思うと、これではいけないと情けなくなります。皆さんと一緒にキャッチアップするには何をなさなければならないのか、模索する講義をしたいと考えています。

教 授 富浦 洋一

システム情報科学研究院

- 専門領域

自然言語処理技術を用いた、情報の抽出・組織化と検索・提供方法に関する研究
- 担当授業科目

(修士課程) 数理統計、自然言語解析、ライブラリーサイエンスPTLI、特別研究I、特別研究II
(博士後期課程) ライブラリーサイエンス特別研究、ライブラリーサイエンス特論、プレゼンテーション演習

私は自然言語処理を専門に研究しています。自然言語処理は、文書の自動要約、文書分類、情報検索など、大量の文書の中から必要な情報／重要な情報に効率的にアクセスするための技術として注目されています。このようなことに興味がある方を歓迎します。

准教授 井上 仁

情報基盤研究開発センター

- 専門領域

情報システム、情報通信技術を利用した学習環境に関する研究
- 担当授業科目

(修士課程) 情報システム論、電子資料開発論、ライブラリーサイエンスPTLI、特別研究I、特別研究II
(博士後期課程) ライブラリーサイエンス特別研究、ライブラリーサイエンス特論、プレゼンテーション演習

情報通信技術を利用した学習環境、学術教育資源の共有と公開、テキストデータベースに関する研究とサービスに携わっています。学習の場やデジタルコンテンツの生成と発信に関心のある方や、ライブラリーサイエンスという新たな研究領域を開拓したい方を歓迎します。

准教授 石田 栄美

附属図書館

- 専門領域

情報サービス機関における情報の分類・検索システム、利用に関する研究
- 担当授業科目

(修士課程) 情報マネジメント論、情報サービス論、ライブラリー資料論、インターンシップ、特別研究I、特別研究II
(博士後期課程) ライブラリーサイエンス特別研究、ライブラリーサイエンス特論、プレゼンテーション演習

図書館情報学の立場からテキストの自動分類・検索に関する研究をしています。現在では、多種多様な情報が様々なメディアによって流通するようになりました。それとともにユーザーの要求も多様化しています。ライブラリーサイエンス専攻では、既定の枠にとらわれない、ユーザの立場に立った情報提供とは何かについて考えていきます。

教授 吉田 素文

医学研究院

- 専門領域

情報の管理・提供における教育・学習の側面に関する研究
- 担当授業科目

(修士課程) コミュニケーション論、ライブラリーサイエンスPTLI、特別研究I、特別研究II

もと外科医なので人のからだに関する情報は豊富です。現在の専門は医学教育学ですが、附属図書館の副館長を兼任しており、電子ジャーナルをめぐる諸問題や電子・オンライン教材の作成支援に携わっています。情報の管理・提供者に必要なコミュニケーションに関する理論とスキルについて、みなさんの学びをお手伝いしたいと考えています。

准教授 川平 敏文

人文科学研究院

- 専門領域

江戸時代以前の書誌学、および書籍を中心とした文化的営為の研究
- 担当授業科目

(修士課程) ライブラリー特殊資料論、ライブラリーサイエンスPTLII、特別研究I、特別研究II

日本の江戸時代における学芸史を専門としています。これまで主として取り組んできたのは『徒然草』の注釈史。『徒然草』の「読まれ方」から、江戸人の思想や文学観を析出する研究です。江戸時代における老荘思想の受容、松平定信の文事なども、近年の研究課題です。授業では、近代以前の書物（和本）の歴史、具体的な調査方法を教授します。

准教授 渡邊 由紀子

附属図書館

- 専門領域

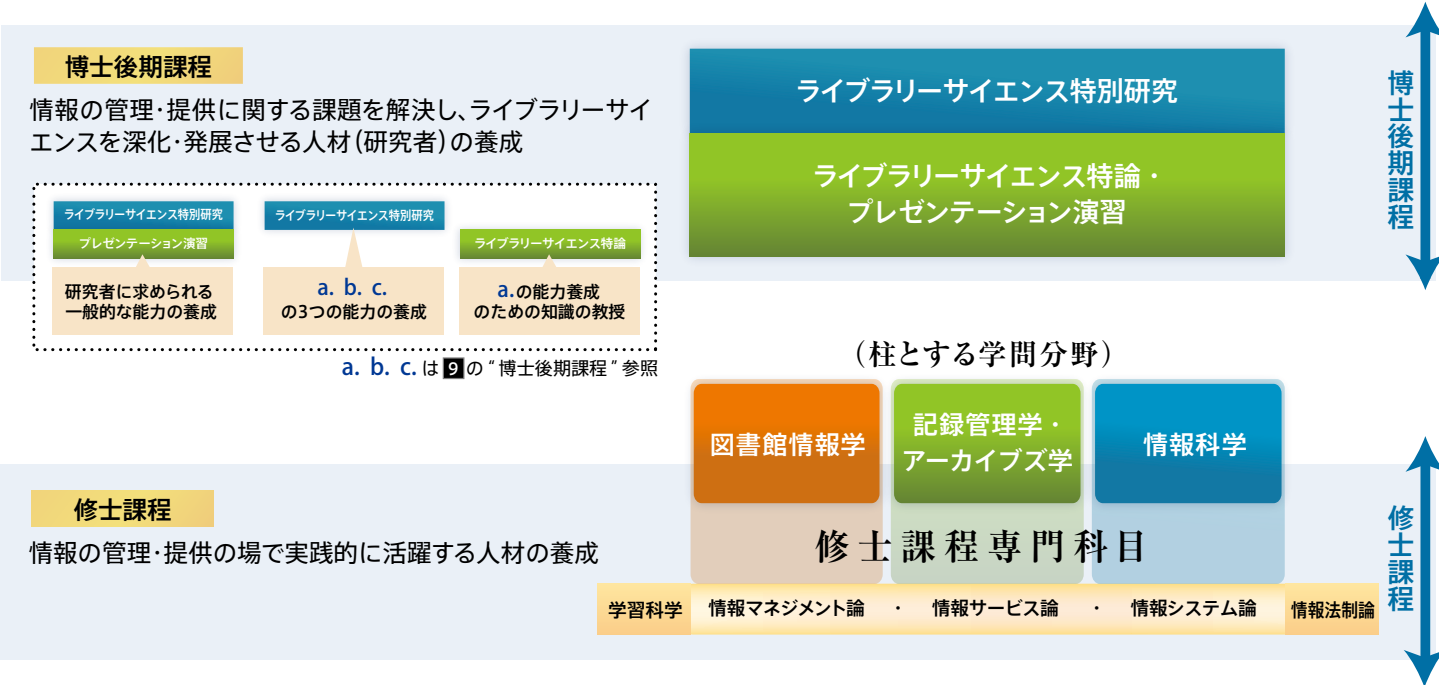
図書館情報学で取り扱う情報の提供と利用に関する研究
- 担当授業科目

(修士課程) 図書館マネジメント論、レファレンスサービス論、ライブラリーサイエンスPTLII、特別研究I、特別研究II
(博士後期課程) ライブラリーサイエンス特別研究、ライブラリーサイエンス特論、プレゼンテーション演習

図書館では現在、学術情報をはじめとする多くの情報の電子化に対応して、電子リソースの新たな管理とサービスが求められています。また、このような動きは、図書館のあり方にも大きな変化を要求しています。現職者として図書館のサービスに携わりつつ、ライブラリーサイエンスの教育・研究に取り組んでいます。

7

教育研究上の目的とカリキュラムの体系



9

授業科目、修了要件、履修方法

▶ 修士課程

- A. 統合新領域学府学生がともに受講する「**学府共通科目**」
- B. 修士論文指導を兼ねる「**特別研究**」
- C. 専攻全体の基礎となる「**基礎科目**」
- D. 理論を実践し、現状での課題を認識する「**PTL・インターンシップ科目**」
- E. 学生のニーズと専任教員の履修指導により選択受講される「**専門科目**」

➡ 授業科目	学府共通科目	科学の統合方法論(1)
	特別研究	特別研究Ⅰ(2)／特別研究Ⅱ(4)
	基礎科目	情報マネジメント論(2)／情報システム論(2)／情報サービス論(2)／情報法制論(2)／学習科学(2)
	PTL・インターンシップ科目	ライブラリーサイエンスPTLⅠ(2)／ライブラリーサイエンスPTLⅡ(2)／インターンシップ(1)
	専門科目	コミュニケーション論(2)／電子資料開発論(2)／情報サービスと著作権(2)／情報資源保存論(2)／図書館マネジメント論(2)／図書館政策論(2)／レファレンスサービス論(2)／ライブラリー資料論(2)／ライブラリー特殊資料論(2)／文書記録マネジメント論(2)／文書記録管理政策論(2)／文書記録活動論(2)／文書記録資料論(2)／文書記録特殊資料論(2)／情報評価分析論(2)／数理統計(2)／自然言語解析(2)／データマイニング(2)／情報セキュリティ論(2)／データベース演習(2)／構造化文書運用演習(2)／外国語資料講読演習Ⅰ(2)／外国語資料講読演習Ⅱ(2)

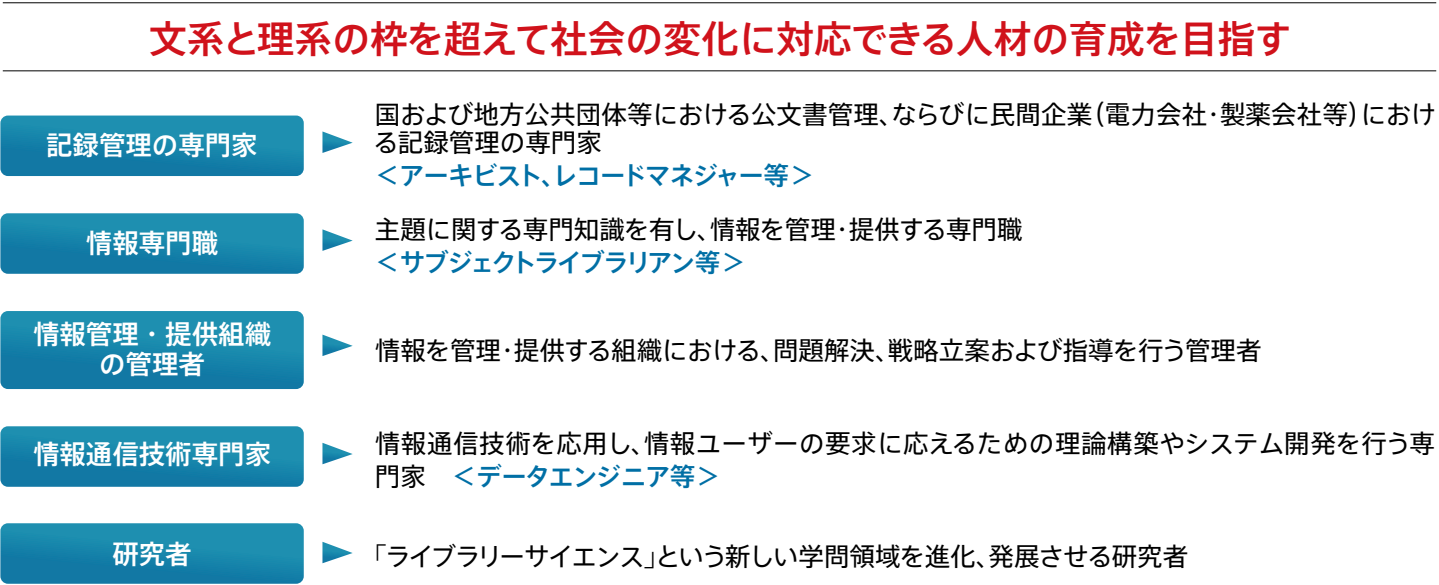
※ ()内の数字は単位数をあらわす

- ➡ 修了要件
- 本専攻に2年以上在学し、36単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

➡ 履修方法	① 学府共通科目	1科目1単位	⑤ 専門科目	6科目12単位
	② 特別研究	2科目6単位	④⑤の単位として修得した単位を除くライブラリーサイエンス専攻の授業科目、本学府他専攻の授業科目、他学府の授業科目(大学院共通科目を含む)のうち4単位まで	
	③ 基礎科目	5科目10単位		
	④ PTL・インターンシップ科目	2科目3単位又は2科目4単位		

8

養成する人材像および予想される進路



▶ 博士後期課程

- a. 「**T字型の研究能力**」図書館情報学、記録管理学・アーカイブズ学、情報科学のいずれかに軸足をおくものの、他の2分野の知見や研究成果を利用して、課題を解決する能力
- b. ユーザーの視点に立って、どのような情報の管理・提供が意義あるかを考察する能力
- c. 従来の枠組みにとらわれることなく、情報の管理・提供のより良い枠組みを探究する能力

➡ 必修科目 (3科目14単位)	① ライブラリーサイエンス特別研究(12) ライブラリーサイエンスに関する独創性の高い研究を行い、その成果を学会や会議で報告・発表し、最終的に博士論文としてまとめるための授業	①②: 研究者に求められる一般的な能力の養成 ①: a. b. c. の3つの能力の養成 ②: a. の能力養成のための知識の教授 基盤的知識・能力が不足する場合、修士課程で開設されている授業科目を履修
	② ライブラリーサイエンス特論(1) 様々な専門性を持つ本専攻博士後期課程の専任教員がライブラリーサイエンスに関する最新の研究についてオムニバス形式により紹介し、専任教員と学生との間で討論を行う授業	
	③ プレゼンテーション演習(1) 学生のプレゼンテーション能力を養成するとともに、ライブラリーサイエンス研究に関する幅広い知識を修得するための授業	

- ➡ 修了要件
- 本専攻の博士課程に5年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、授業科目は必修科目の3科目14単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

➡ 履修方法	ライブラリーサイエンス特別研究	1科目12単位
	ライブラリーサイエンス特論	1科目1単位
	プレゼンテーション演習	1科目1単位